



矢来自治会長  
坂田 裕之 さん

矢来自治会では、地域の話し合いから動き出そうという目標をもち活動しています。近年は住宅地開発で子どもたちが増えたことや将来的に高齢化が進んでいくことを考えイベント型から安全安心の地域づくりにシフトしていこうと地域で話し合っています。イベントについては、先人たちの考えを大切にしつつも地域にとって必要なものを絞り、統合や見直しを進めています。その中で矢来では皆が参加しやすいようにと目標を立て三世代が交流できる「絆まつり」を行っています。若い世代との交流を行うことで、今は若い人からの声がある事業も生まれてきました。その取り組みの一つが「夜が暗い」という地域からの声が上がった防犯灯の設置です。地域の理解を得たうえで自治会独自の設置を行うことができました。

### 安心安全と三世代交流

## 地域づくりのあり方を考える

日本全体が人口減少する中で、残念ながらすぐにこの流れを止めることはできません。町内でも人口が増加している地域もあれば人口が減少している地域もあります。私たちは、それぞれの地域でこれからの将来を考えたときに、地域としてのありたい姿を考え、その結果、何を受け入れ、何を課題としてとらえるのか話し合うことが大切です。ここでは、地域でできることやそのあり方について話を聞きました。

## 本来の「目的」を忘れず対話と柔軟性を

金ケ崎町地域づくりのあり方検討会  
委員長 細目 明子 さん



地域づくりのあり方検討会では、「地域の安心安全、不安や負担感」といった多くの地域に共通する課題に着目し検討してきました。そこで感じたことは、立ち止まって考えること、対話の重要性、柔軟性をもって取り組むことです。地域では、今までの流れをそのまま残していこうという意識や本来の目的の前に実行することが目的となってしまう場合もあります。「何のために」を忘れず事業ごとに立ち止り進めていってほしいと思います。また、金ケ崎町は企業も多く町外から金ケ崎に移り住む方も多くいます。以前から住んでいる人と新しく住み始めた人がそれぞれを尊重し、住みやすい地域にするには話し合いで課題を解決していくことが重要です。安全・安心の暮らしに直結する部分には特に助け合っていかなければならない認識は各地域で持っているもので、お互いに歩み寄り受け入れる柔軟性を持ち地域づくりを考えていってほしいです。地域づくりは時代の流れの中、変わらなければいけない時が来ています。地域も行政もひとりひとりの「声」をしっかりと拾い、それぞれができることから、ゆっくりでもいいので進めていってほしいです。

## 語り合うことは楽しいこと より良くしようとする力を取り戻す



若菜 千穂 さん  
特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター常務理事、金ケ崎町地域づくりのあり方検討会オブザーバー

人口減少と高齢化が深刻化する中で、従来の住民自治では、集落行事や伝統芸能の継承が困難になるだけでなく、通院や買い物、一人暮らしの孤立化など安心な暮らし自体が維持できなくなる現実がすぐ目の前に迫ってきています。そのような状況の中、地域を運営するという視点を立ち、おおむね小学校の区域を範囲として、そこに暮らす人々を中心となって形成し、地域の暮らしを守る活動や事業に取り組み組織を地域運営組織としています。

えてきました。私も県内のいくつかの地区において住民自らがつく地域計画の策定やその実践の支援に関わっています。その過程は苦勞の連続です。ただ、その中でもひとつ分かったことは、地域について老若男女が一堂に会して語りあうことは「楽しい」ということです。楽しく語り合うと、そこで出たアイデアに取り組んでみたり、それが新しい地域づくりにつながるのです。しかし一方で、現在の自治会は行事を継続していくことで精いっぱい、役員が輪番制であることも、既存の行事や活動を見直し、改善していく仕組みになりにくい状況です。このことから、地域運営組織

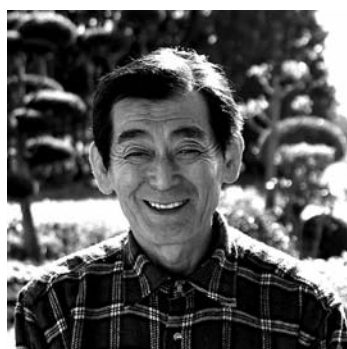
づくりの取り組みは、地域自身が自らを振り返り、語り合うことで、より良くしていこうとする力を取り戻すことであり、その仕掛けを組織に内在させるプロセスです。

金ケ崎町では、住民自治の実態の丁寧な把握を踏まえ、これからの住民自治のあり方の検討に今回取り組みました。「自治会とは何か」「自治会に必要なのか」という意見も出るほど、深く真剣な議論がなされました。未来を見据えた住民自治のあり方をすぐに実現することは難しいですが、まずは、「ここで安心して暮らしていくために、私たちにできることは何か」を語り合うことから始めてみましょう。

### 13 団体で話し合いの場を

長志田地域では、連絡協議会を立ち上げ話し合いの機会を設けています。5年ほど前から自治会や他の団体だけでは解決できない問題が発生し、それぞれの課題を地域の課題と捉え、地域にある13の団体が集まり話し合いをしています。多くの団体が意見を交わすことで問題解決が以前よりスムーズに進むようになりました。

また、自治会としては防災について強化しようという話が進められています。「いざ」という時に個人でどう動いたらよいかわからない人もいます。そこで地域での動きを確認するためのマニュアル作成にも取り組んでいます。地域は高齢化と世帯数の減少が進んでおり、除雪や空き家の問題もありますが、この地域に合ったやり方を話し合いながらできるところから始めていこうと思います。



長志田自治会長  
千葉 義隆 さん